

Softfront Report

2016年3月期 第2四半期連結累計期間

(2015年4月1日～9月30日)

トップメッセージ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、2013年5月10日付で発表した『成長』をテーマとした中期経営方針の下、最終年度である今期も引き続き『3つの事業領域で成長』と『内なる成長として、収益性と生産性の向上』の2つの重点課題に対する取り組みを更に推し進め、業績の安定と拡大を目指しております。

『3つの事業領域での成長』における第2四半期(2015年4月1日～9月30日)の新たな取り組みは次のとおりです。

既存事業領域では通信事業者に対して、テレビ会議関連ソフトウェア製品「HelloMeeting」及び「LivyTalk」をベースとした各種案件を、また、メーカ系においては、主に複合機メーカーを中心にIP FAXの分野で複数社からの案件を受注しており、更なる受注の伸びを期待しております。

サービス事業領域ではインキュベーションプログラム「KDDI ∞ Labo」の新たなハードウェアプログラムにおいて、モノづくりコーチ企業として参画や、女性の起業をサポートする「コロコニ・プロジェクト」を通じて、日本が目指す「すべての女性が輝く社会づくり」に沿った形で事業展開を進めており、社会変革に貢献しつつ、収益拡大につなげることを企図しております。

海外事業領域ではベトナム現地法人SOFTFRONT VIETNAM CO., LTD.(ソフトフロントベトナム)において、ホーチミンシティでの体制拡大に伴い、2拠点のオフィスを1つに集約したことに加え、研究開発活動及び営業活動等の事業展開を睨み、新たにハノイ事務所を開設しております。また、ベトナム国内の販売ライセンス取得が完了し、当社グループ内取引以外の外部取引が開始され、小規模ながら売り上げも計上し始めております。今後、日系法人企業などを含む現地法人企業等からの更なる外部収益の伸びを期待しております。

『内なる成長として、収益性と生産性の向上』に関しては、2014年6月1日に東京本社と札幌本社を東京の一拠点に集約し、効率性及び生産性の向上を図っております。更に、ベトナム現地法人の開発力を活用して、グローバル化によるコスト低減と開発力増強を引き続き進めております。ベトナムでの開発拠点は順調に稼働してきており、今後も更なる収益性と生産性の向上に全力を尽くしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年10月30日

代表取締役社長

阪口克彦

営業概況

当第2四半期連結累計期間(2015年4月1日～2015年9月30日)の当社グループ事業に関するICT関連分野を取りまく環境につきましては、リアルタイムコミュニケーション市場の進展と近年話題になっているIoT(Internet of Things)関連市場の進展が注目されます。リアルタイムコミュニケーション市場では、格安なネット接続需要に応える仮想移動体通信事業者MVNO(Mobile Virtual Network Operator)、LINEをはじめとする新たなコミュニケーションツールなどの需要が引き続き伸びております。

これらのネットワーク・インフラの充実や新たなサービスの登場に加えて、スマートフォン/タブレット端末の利用拡大を背景として、IP電話、テレビ電話及びテレビ会議のソリューション市場並びにBYOD(Bring Your Own Device)のソリューション市場が拡大しつつあり、今後様々な分野への普及がより進展すると見込まれております。

また、様々な「モノ」に通信機能を持たせ、インターネットに接続して自動認識、自動制御、遠隔計測等を行う技術であるIoT関連市場にも展示会など様々なソリューションが紹介され始め、市場の拡大が期待されてきております。

このような環境の下、当社グループは『成長』をテーマとした中期経営計画を2013年4月からの3カ年を対象として推進しており、当期(2016年3月期)は最終年度の仕上げの年となります。当社グループでは、上記リアルタイムコミュニケーション市場において、黒字転換に向け、外なる成長として、3つの事業領域(既存事業、サービス事業、海外事業)での進展並びに国内拠点統合及びベトナム現地子会社の立ち上げに続く更なる変革を進めており、また内なる成長として、収益性と生産性の向上(開発コスト削減及び強みの再構築)を進めております。

これらの成長に向けた各種施策は概ね順調に進展しており、当第2四半期連結累計期間の受注状況は前年同四半期に比べて改善傾向にあります。また、売上高も前年同四半期に比べて1.5倍以上となっているなど、前期の国内拠点統合後の業績低迷からの回復がなされてきていると考えております。

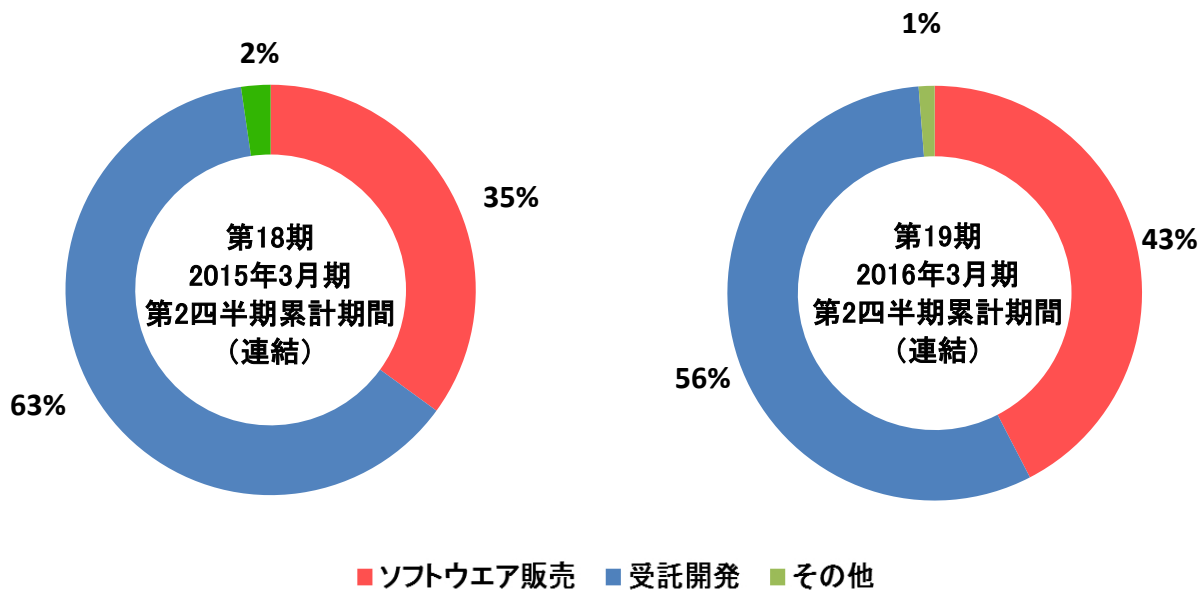
これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高181,543千円(前年同四半期比52.8%増)、営業損失175,569千円(前年同四半期は営業損失239,957千円)、経常損失177,132千円(前年同四半期は経常損失240,789千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失177,737千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失242,942千円)となっております。なお、各四半期連結会計期間の売上高を比較すると、第1四半期連結会計期間が58,064千円、当第2四半期連結会計期間が123,478千円であり、その増加率は112.6%と着実に伸びており、引き続き、上記各施策を確実に実行することにより、売上の拡大に努める所存であります。

引き続き、通信事業者分野での受注拡大を図るとともに、サービス事業ではデジタルポスト関連事業をはじめとする他社との協業・業務提携を進め、ビジネスの拡大を目指します。また、ベトナム現地法人SOFTFRONT VIETNAM CO., LTD.と連携して売上原価の低減を図るとともに、予算管理の徹底により販売費及び一般管理費を削減し、全般的なコスト削減を図ってまいります。

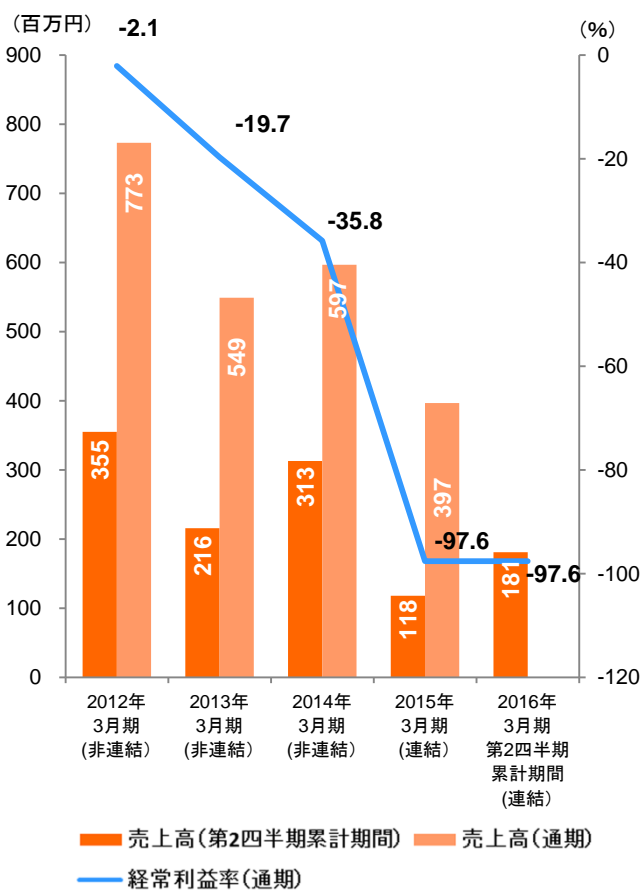
財務ハイライト-1

当社は2015年3月期より連結財務諸表を作成しているため、2014年3月期以前の財務情報は単体の財務情報を記載しております。

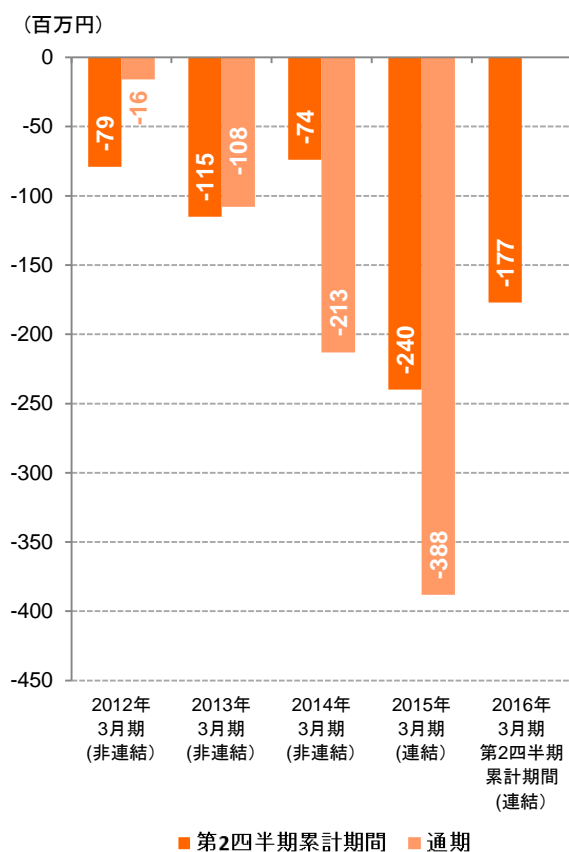
売上高の構成



売上高／経常利益率

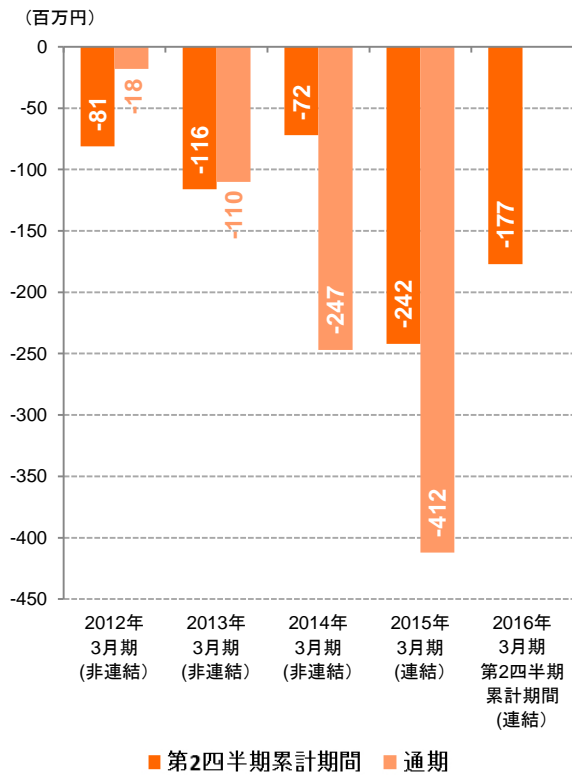


経常損益

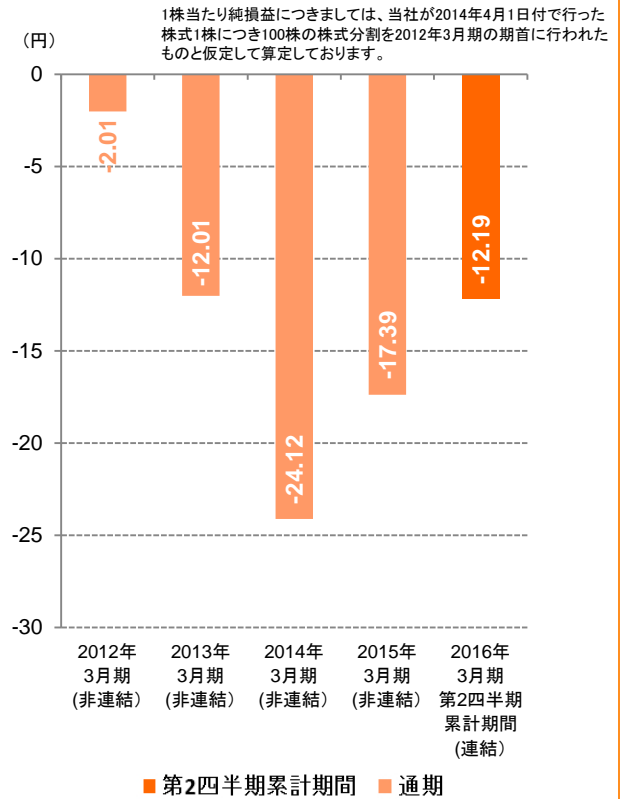


財務ハイライト-2

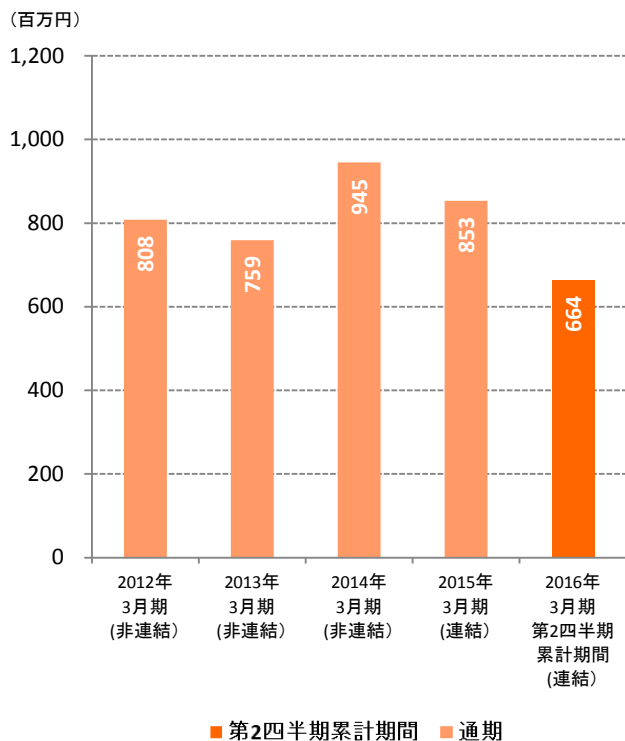
純損益



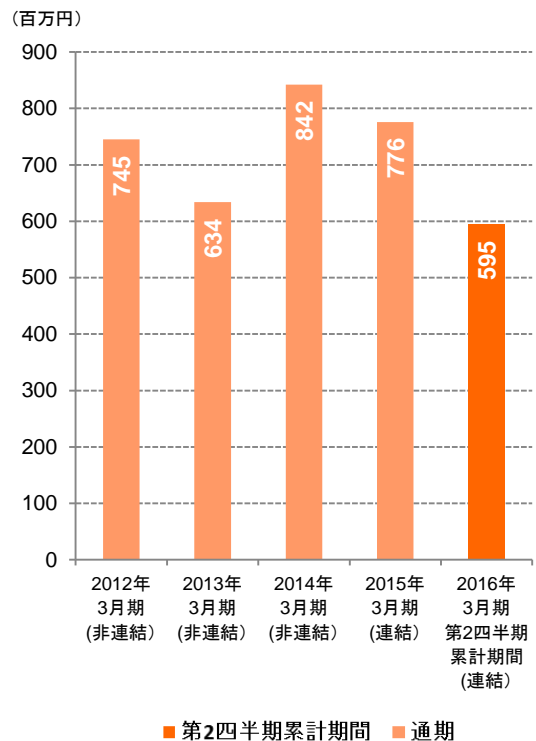
1株当たり純損益



総資産



純資産



財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表

	当第2四半期 会計期間末 2015年9月30日	前第2四半期 会計期間末 2014年9月30日	前会計年度末 2015年3月31日
(単位:千円)			
資産の部			
I 流動資産	458,692	810,838	662,841
II 固定資産	205,493	200,556	191,150
有形固定資産	8,059	13,545	—
無形固定資産	152,325	145,950	146,934
投資その他の資産	45,108	41,060	44,215
資産合計	664,185	1,011,395	853,992
負債の部			
I 流動負債	53,459	45,970	59,541
II 固定負債	15,000	21,965	18,000
負債合計	68,459	67,936	77,541
純資産の部			
I 株主資本	593,926	940,905	771,664
資本金	3,196,761	3,196,761	3,196,761
資本剰余金	2,978,921	2,978,921	2,978,921
利益剰余金	Δ5,581,692	Δ5,234,714	Δ5,403,954
自己株式	Δ64	Δ64	Δ64
II その他の包括利益累計額	1,794	2,548	4,780
III 新株予約権	5	5	5
純資産合計	595,726	943,459	776,450
負債純資産合計	664,185	1,011,395	853,992

財務諸表

■ 四半期連結損益計算書

	当第2四半期 累計期間 2015年4月1日- 2015年9月30日	前第2四半期 累計期間 2014年4月1日- 2014年9月30日	前会計年度 2014年4月1日- 2015年3月31日
(単位:千円)			
I 売上高	181,543	118,805	397,705
売上原価	127,256	111,308	280,936
II 売上総利益	54,286	7,497	116,768
販管費及び一般管理費	229,855	247,455	506,659
III 営業損益	△175,569	△239,957	△389,890
営業外収益	147	860	3,598
営業外費用	1,711	1,691	1,967
IV 経常損益	△177,132	△240,789	△388,259
特別利益	—	—	—
特別損失	—	1,246	22,411
V 税金等調整前四半期純損益	△177,132	△242,035	△410,670
法人税、住民税及び事業税	605	907	1,512
VI 四半期(当期)純損益	△177,737	△242,942	△412,183

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	当第2四半期 累計期間 2015年4月1日- 2015年9月30日	前第2四半期 累計期間 2014年4月1日- 2014年9月30日	前会計年度 2014年4月1日- 2015年3月31日
(単位:千円)			
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	△123,119	△122,855	△274,657
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△63,232	△28,269	△106,877
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,000	345,378	342,378
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,418	1,105	2,578
V 現金及び現金同等物の増減額(△:減少)	△191,770	195,358	△36,578
VI 現金及び現金同等物の期首残高	480,749	499,278	499,278
VII 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	18,049	18,049
VIII 現金及び現金同等物の四半期末残高	288,978	712,685	480,749

株式の状況

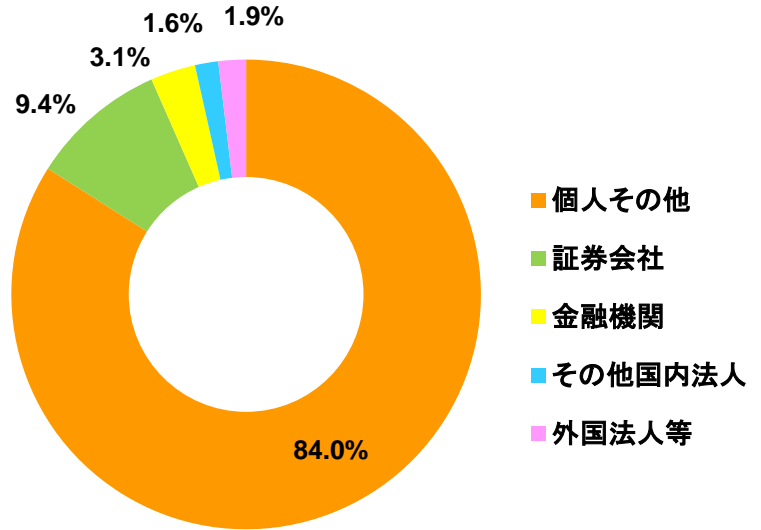
株式の状況

(2015年9月30日現在)

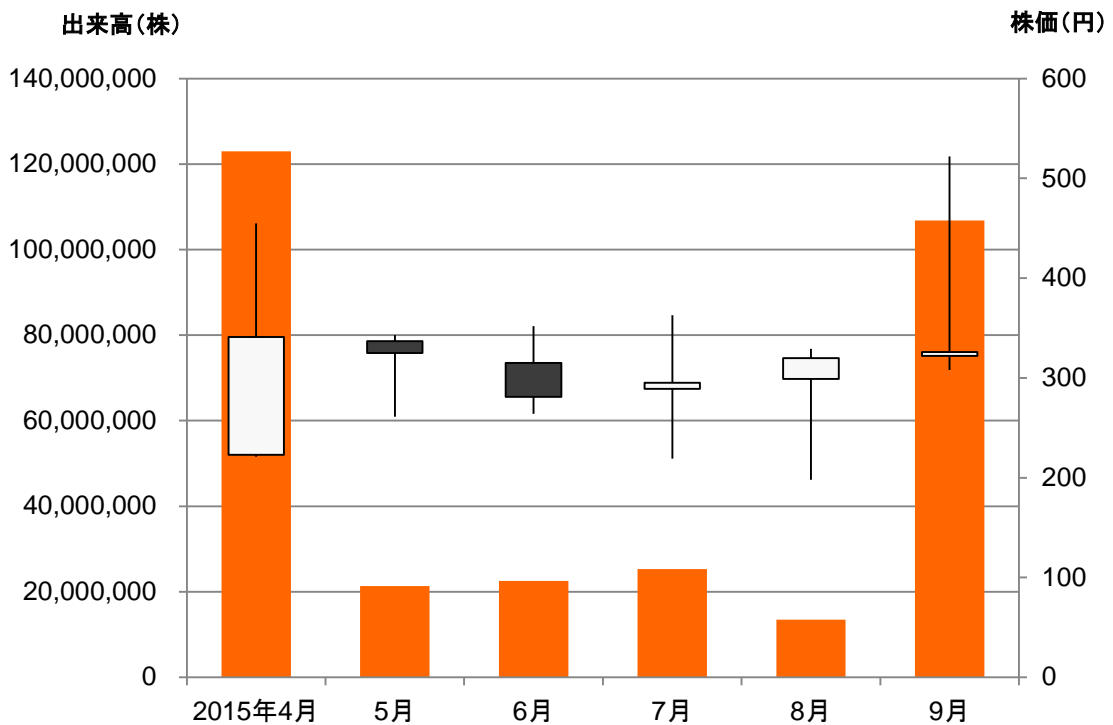
発行可能株式総数 : 32,440,000株

発行済株式数 : 14,586,697株

株主数 : 8,752名



株価・出来高推移状況





〒107-0052 東京都港区赤坂4丁目2-19
赤坂SHASTA・EAST 3F

TEL:03-3568-7007 FAX:03-3568-7008